

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2373800651
法人名	社会福祉法人成祥福祉会
事業所名	グループホーム岩崎あいの郷
所在地	小牧市岩崎原3丁目292番地 (電話) 0568-75-2700
評価機関名	愛知県社会福祉協議会施設福祉部
所在地	名古屋市中区丸の内2-4-7
訪問調査日	平成19年9月10日

【情報提供票より】(平成19年8月 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成16年 4月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	10 人 常勤7人, 非常勤4人, 常勤換算6.2人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	4階建ての ~1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,500 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	380 円
	夕食	370 円	おやつ	50 円
	または1日当たり		1,000 円	

(4) 利用者の概要(8月 日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	3	要介護2	3		
要介護3	2	要介護4	1		
要介護5	要支援2				
年齢	平均 81歳	最低	66歳	最高	87歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	小牧市民病院、春日井リハビリテーション病院、森クリニック
---------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームは4階建ての建物の1階にあり、駐車場横の和風の格子戸付き門を入り、建物横の植え込みの中の小道を行くと玄関がある。2階から4階のユニットケアの特別養護老人ホームも含め、ここでは、入居者はあくまでこの地で生活している高齢者であり、職員は生活の援助員として支援している。また、「水分補給」「徘徊」のような専門用語は禁止、発言や記載ともに全て代用語を使用している。グループホームでの生活は、寝る前の入浴も、掃き出し窓からの自由な外出も、居室内での調理も援助員チームが支援しており、広い建物の共用部分も含め内外を自由に行き来し、総合ロビーにいる高齢者介助犬ラブラドルレトリバーの「りゅう」と触れ合うことも出来る。援助員は一人一人を時間をかけて見守り、居室内に障子があれば年1回は家族が張り替えるなど、家族と共に高齢者を支えているホームである。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	共用空間を見直し、ソファを移動するなどコーナーの独立性を高めたり、暖かみを増す置き物を追加し、壁にかけるものを高齢者の視線に合わせて下げるなどの工夫をし、ケアサービス面では、入居者を生活行動の主体としてゆく支援のなかで、例えば食後の片づけを自発的に行う人が増えたなどの変化がある。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	昨年以降改善されてきたと思われる様々なことがらを、成果や効果と認める気配がやや希薄であり、理念に基づくホームの活動を向上させるために、職員全員がしてきたこれまでの努力とがんばりの成果を再確認し、新たな目標をたてるための節目として、評価をさらに強く位置づけ、役立てることが望まれる。地域密着型サービスの特徴を生かして安心した生活を支えるために、本人本位の支援を重点的な取り組みとしている。また、入居者が近隣住民と交流を図ることを意識的に支援して、地域で暮らし続けるために努力をしている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議ではホームの事業目標や職員確保に関する課題、介護保険制度に関してなど意見交換されている。家族も自治体職員も民生委員も同じテーブルについて協議出来る機会は貴重なもので、評価の内容も課題の一つとして取り上げていただき、地域の人々と共に生きるホームでの生活がより豊かになるよう、会議がさらに実りあるものとなるような取り組みが期待される。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	基本的に入居者の生活を尊重し、その援助者として家族にも積極的な入居者へのかかわりとホームへの関与を期待しており、家族に対する報告や情報提供を通信「アイメール」などで定期的に行っている。入居者の生活を尊重し、支援できることなど個人の生きる意欲を引き出すような援助計画を日々の援助に取り入れて、家族の心配や苦情にも十分カンファレンスで検討し対処できるシステムである。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	グループホーム「らく楽」は自ら外部や地域へ働きかける方針であり、入居者が外に出て地域の人々と交流することをすすめている。町内会員として町内回覧や町内会の盆踊りなどにも入居者と職員ともに参加している。入居者一人の自由散歩の場合にも、地域の人から声を掛けられるようになっていく。施設の高齢者介助犬「りゅう」は職員と共に朝夕外を散歩する事で、地域との付き合いに一役買っている。岩崎あいの郷は特別養護施設を含めた複合施設で、相互の共有スペースや喫茶室などがあり、そこでも、来訪される地域住民などと自由に行き来する入居者との交流がある。

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホームを含めたユニットケア全体での共通の目指すものや大切にしている事などを取り決めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は共有の理念で日々入居者と向き合い、入居者の生活主体とする支援の中で、実践に向けて散り組んでいる。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自ら外部や地域へ働きかける方針であり、入居者が外に出て地域の人々と交流することをすすめている。町内会員として町内回覧や町内会の盆踊りなどにも入居者、職員ともに参加している。入居者一人の自由な散歩の場合にも、地域の人から声を掛けられるようになっている。施設の高齢者介助犬「りゅう」は職員と共に朝夕外を散歩する事で、地域との付き合いに一役買っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	施設長は外部からの研修を引き受け、職員の人材育成と平行して介護保険サービスの質の確保を積極的に推進し、職員も運営理念を実践している。評価の結果、改善されてきたと思われる様々なことがらを、評価の成果や効果と認める意識が不十分である。	○	理念に基づくホームの活動を向上させるために、職員全員がしてきたこれまでの努力とがんばりの成果を再確認し、新たな目標をたてるための節目として、評価をさらに強く位置づけ、役立てることが望まれる。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年2、3回は定期的開催し、住民も参画し、地域と共生した活動展開に努力している。施設長の努力により、運営推進会議以外の機会でも、民生委員が挨拶に来訪され、高齢者についての情報交換も行なっている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当との情報交換も定期的実施される	○	複合施設では地域包括支援センター事業を実施しているが、グループホームとしても認知症専門ケアの現場からの情報発信拠点として、また市町村と共催事業を計画実施するなど、今後も積極的に市町村に働きかけが望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	基本的に入居者の生活を尊重し、その援助者として家族にも積極的な入居者へのかかわりとホームへの関与を期待している。家族に対する報告や情報提供を通信「アイメール」などで定期的実施している		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を重要事項説明書に明記している。家族の訪問、電話連絡時には職員の方から話し掛ける事で家族が意見を言いやすいように努めている。年2回の家族会でも家族同士も話し合える。運営推進会議にてもホームの方針など協議している。これまで苦情などはないが、家族の心配や苦情には十分カンファレンスで検討し、対応するシステムである。グループホームへの市町村介護相談員を活用して苦情や疑問に対処している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の退職や異動は最小限にとどめている。産休や法人内移動、退職時には入居者や家族に前もって知らせ、理解を得るようにしている。新しい職員には、当グループホームの理念にそったケアが早く取得できるよう、チームとしてフォローしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、管理者や職員の育成計画をたて、法人内での研修を年間通じて受け、外部との情報共有に努め、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	○	様々な外部研修も視野に入れて職員の研修計画を立て、実施されることが望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者は、管理者や職員の複合施設内の他の施設職員との交流、外部のグループホーム連絡協議会での交流をすすめている。事例検討会などでの認知症の勉強を通じて、認知症があっても普通に生活できるように、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	○	交流の成果を全ての職員のものとするために、くわしい報告を行い、新たな交流についても話し合えるよう、定期的な検討会の開催が望まれる。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	新しい入居者やサービスの内容を変更した場合は、なじめるまで、個別に支援する時間を十分にかけている。入居者がホームを自宅と思えるよう、安心し、納得した生活ができるような、サービス支援に心がけている。入居者が安心して生活できるように、職員や家族がホームの雰囲気と場作りに工夫している		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀れを共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は援助者として、入居者の生活援助の最大理解者としてその人なりの能力を最大限発揮できるような支援をしている。「一緒に○○しましょうか」という対応である。一日中、穏やかに生活できるような関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個人の思いは各居室で把握出来る場合が多く、9人の希望に応じた日課を計画し実施できるように支援している。希望の中には泊まりの必要な旅行を希望しているなど、実現は状況上困難と思えることもあるが、それでも答えていこうと努力している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者が希望する目標に添って、一人一人の担当援助員が中心となって家族や関係者とも相談し、各々の意向をくんで入居者のニーズに対応できるような介護計画を作成している。また、課題を達成する方策を職員全員がよく考えている。	○	担当者の意向を中心に、職員のチーム体制として目標達成できるように、随時話し合いや情報交換を積極的に実施しているが、定例の会議も実施することが期待される。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居者の意向や日常生活行動をアセスメントし、生活援助プランとして一人ひとりの介護計画に反映させている。3ヶ月ごとに見直しを行うとともに、必要に応じて本人、家族、関係者と話し合いを行って介護計画を見直し、新たな計画を作成する。介護計画の作成には、入居者にも理解し納得してもらえるまで根気よく対応している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者が主治医の往診を含めた診察を受けたり、希望する美容師に出張を依頼したり、好みの買い物にゆくなど、本人の意向を尊重した様々なことがらに、ホームとして支援している。時には夜、個人的な外出に同伴するなど本人、家族の状況に応じて柔軟に支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医はもちろん入居者のこれまでの主治医の利用にも対処し、健康管理に努めている		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	グループホームでは今まで事例がないが、併設の特別養護ホームへ入居などで対応している。今後、入居者の急変など考えられるために、現在は入居者の健康観察など記録を充実し、入居者の状態を把握し、関係者情報の共有に努めている。	○	グループホームでも、今後重度化した時や終末期の過ごし方について、本人ならびに家族の意志を確認し、主治医とも十分話し合い、一人一人についての方針を立てて、職員はじめ関係者が意志統一しておかれることが期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	便り「アイメール」上の写真や氏名の公表も前もって本人、家族の了解をとっている。玄関の面会簿もない。入居者のプライバシーは守られ、高齢者の誇りを傷つけるような対応はない。個別のケアはドアを閉めた居室内や他の人の目に触れない所で実施されており、安心して生活できる環境がある。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者には担当援助員が決っていて、一人ひとりのペースを大切に、あせらないゆったりした生活が確保されている。一日の生活行動は強制的ではなく、入居者の希望は職員同士でも把握できる体制があり、買い物など望みを達成できるよう支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の献立や量は、一人ひとりの好みや食欲を考慮している。数人分の大盛りから食卓で各自の好みの量を取り分けて食べるなど、食事を楽しいと思えるような手立てを考えて実施し、入居者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。皿洗い、片付けなど役割も定着し、楽しみなながらできるような支援に心がけている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	朝でも夜寝る前でも、本人の希望する時間の入浴を支援している。浴槽の湯は最大2人で入れ替えるなど、清潔と心地よさを心がけている。入居者の意向を汲みながら入浴が実施されている。清潔で、皮膚疾患も改善傾向である。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	花づくり、料理や散歩など一人ひとりが豊かに日々を過ごせるように、援助者が入居者の生活歴を充分に考慮して楽しみごとや、気晴らしができる工夫をしている。張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、楽しみごと、気晴らしの支援をしている		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出は日常的な事と位置付け、一人ひとりのその日の日課を確認し、外出も希望にそえるようにしている。買い物や散歩、かかりつけ医の受診など積極的に戸外へ出かけられるよう支援している。体のふらつく杖歩行の方も、戸外散歩など意向を汲んでなるべく実施している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	朝7時から夜9時まで、玄関に鍵はかけていない。居室は入居者が自分で施錠する方が3～4名ある。時には自由散歩として警察までお世話になることも年に1回程度はあるが基本的には鍵をかけないケアに取り組んでいる。重要事項説明書に、鍵をかけないケアについても拘束禁止事項の一つとして明記している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	入居者と職員の避難訓練を定期的に行っている。災害時には、昼夜を問わず地域の人々の協力を得られるように、日頃より地域の人とのコミュニケーションに努め、ホームの理解が深まるように職員から働きかけている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の食べる量を勘案して、テーブルから各個人の皿に食べたい量を取れるようにしている。無理に食べたり、少ないということもなく、その日の体調に合わせた食事の量である。食材の種類の多い献立で、栄養バランス上の工夫もしている。水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態を観察し、間食時に十分とるようにするなど習慣に応じた支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、廊下、居間、台所、食堂、1～2人用浴室、トイレ等十分な広さで、全てバリアフリー化しており、杖歩行、車椅子問わず、安心して移動可能である。玄関や食卓には、花が飾られ、リビングコーナーには魚の水槽を置き、和める雰囲気づくりをしている。生活感や季節感を採り入れて、入居者が居心地よく過ごせるような工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはたんすや祭壇など自由に置き、本人の思いを取り入れて花や写真が飾ってある。テレビ台もその方が見やすい位置に自由に動かせるようにして、本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。各居室から垣根を通して外が見え、季節の変化を感じ取ることが出来る。		

※  は、重点項目。

: